【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和4年12月19日(2022.12.19)

【公開番号】特開2021-105122(P2021-105122A)
【公開日】令和3年7月26日(2021.7.26)
【年通号数】公開・登録公報2021-032
【出願番号】特願2019-237216(P2019-237216)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｆ２２０/１８(2006.01)
Ｃ０８Ｌ ３３/０８(2006.01)
Ｃ０８Ｋ ３/０１１(2018.01)
Ｃ０８Ｋ ３/０１３(2018.01)
Ｃ０８Ｃ ３/００(2006.01)
Ｃ０８Ｃ １/１５(2006.01)
Ｃ０８Ｃ １/１６(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｆ２２０/１８
Ｃ０８Ｌ ３３/０８
Ｃ０８Ｋ ３/０１１
Ｃ０８Ｋ ３/０１３
Ｃ０８Ｃ ３/００
Ｃ０８Ｃ １/１５
Ｃ０８Ｃ １/１６

【手続補正書】
【提出日】令和4年12月9日(2022.12.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アクリル酸エステル由来の結合単位（Ａ）とメタクリル酸エステル由来の結合単位（Ｂ）と反応性基含有単量体由来の結合単位（Ｃ）を含んでなり、全灰分量が０．５重量％以下で、重量平均分子量（Ｍｗ）が１００，０００～５，０００，０００の範囲であるアクリルゴム。
【請求項２】
アクリル酸エステル由来の結合単位（Ａ）１０～９８．９重量％、メタクリル酸エステル由来の結合単位（Ｂ）１～５０重量％、反応性基含有単量体由来の結合単位（Ｃ）０．１～１０重量％及びその他の単量体由来の結合単位（Ｄ）０～３０重量％からなるものである請求項１に記載のアクリルゴム。
【請求項３】
全灰分中のマグネシウム、ナトリウム、カルシウム、リン及びイオウの合計量が全灰分量に対する割合で５０重量％以上である請求項１又は２に記載のアクリルゴム。
【請求項４】
ゲル量が、５０重量％以下である請求項１～３のいずれか一項に記載のアクリルゴム。
【請求項５】
リン酸エステル塩又は硫酸エステル塩を乳化剤として使用し乳化重合したものである請求

項１～４のいずれか一項に記載のアクリルゴム。
【請求項６】
乳化重合した重合液をアルカリ金属塩又は周期表第２族金属塩を凝固剤として使用することにより凝固させ、乾燥したものである請求項１～５のいずれか一項に記載のアクリルゴム。
【請求項７】
凝固後にスクリュー押出機を用いて乾燥されたものである請求項１～６のいずれか一項に記載のアクリルゴム。
【請求項８】
前記スクリュー押出機を用いた乾燥が、実質的に水分を含まない状態で行われたものである請求項７に記載のアクリルゴム。
【請求項９】
前記スクリュー押出機を用いた乾燥が、減圧下で行われたものである請求項７又は８に記載のアクリルゴム。
【請求項１０】
前記スクリュー押出機を用いた乾燥後に、５０℃／ｈｒ以上の冷却速度で冷却されたものである請求項７～９のいずれか一項に記載のアクリルゴム。
【請求項１１】
アクリル酸エステル（ａ）、メタクリル酸エステル（ｂ）、反応性基含有単量体（ｃ）、及び必要に応じて共重合可能なその他の単量体（ｄ）とからなる単量体成分を水と乳化剤とでエマルジョン化した後に重合触媒存在下に乳化重合して乳化重合液を得る乳化重合工程と、
得られた乳化重合液と凝固液を接触させて含水クラムを生成させる凝固工程と、
生成した含水クラムを洗浄する洗浄工程と、
洗浄した含水クラムから水分を絞り出す脱水工程と、
脱水した含水クラムを乾燥する乾燥工程と、
を含むアクリルゴムの製造方法。
【請求項１２】
含水クラムの脱水工程と乾燥工程をスクリュー型押出機を用いて行うものである請求項１１に記載のアクリルゴムの製造方法。
【請求項１３】
請求項１～１０のいずれか一項に記載のアクリルゴムからなるシート状又はベール状のアクリルゴム成形体。
【請求項１４】
比重が、０．８以上である請求項１３に記載のアクリルゴム成形体。
【請求項１５】
請求項１～１０のいずれか一項に記載のアクリルゴムを含むゴム成分、充填剤及び架橋剤を含んでなるゴム組成物。
【請求項１６】
請求項１５に記載のゴム組成物を架橋してなるゴム架橋物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明のアクリルゴムにおいて、ゲル量が、５０重量％以下であることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、リン酸エステル塩又は硫酸エステル塩を乳化剤として使用し乳化重合したものであることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、乳化重合した重合液をアルカリ金属塩又は周期表第２族

金属塩を凝固剤として使用することにより凝固させ、乾燥したものであることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、凝固後にスクリュー押出機を用いて乾燥されたものであることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、前記スクリュー押出機を用いた乾燥が、実質的に水分を含まない状態で行われたものであることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、前記スクリュー押出機を用いた乾燥が、減圧下で行われたものであることが好ましい。
本発明のアクリルゴムにおいて、前記スクリュー押出機を用いた乾燥後に、５０℃／ｈｒ以上の冷却速度で冷却されたものであることが好ましい。